

県産材の魅力感じて

鳥取県産材の住宅利用を促すため、鳥取県木材協同組合連合会(前田八壽彦会長)が参加者を募り、10日に県東部で実施した木育ツアーと意見交換会「県産材・未来ビジョン」の様子を紹介する。 **木育ツアー&意見交換会**

意見交換会

若い世代へ積極PRを 地産地消で活性化

県産材活用の機運を盛り上げる意見交換会は、鳥取市内であり、地域活性化につながる木材の地産地消の推進などについて、意見が交わされた。 業界内外から参加者を募る。前段で音楽会を組んだ。鳥取県出身のチロ奏者・中嶋香恵さんがステージを務め、三朝バイ



太陽の光が差し込む育成林

工程を楽しく学ぶ

木に囲まれ快適な暮らし

県の補助金活用し家づくり

木が育つ山に向き、そこで育った木が住宅に使われ、人の生活の一部になる。 9割以上を山林が占める。 育つ。子育て世代を含め、幅広い年代の参加があった。 智頭町で、杉、ヒノキが育つ植林エリアや木材加工センターを見学。鳥取の木を愛し、県産材に詳しい「ゲンサン」の一人、林田護さんが案内を務めた。



智頭町森林組合木材加工センターで、製材など参加者ら

木育ツアー



県産材をふんだんに使った住宅展示場のリビング

だんに使った鳥取市の住宅展示場「感木」では、木に囲まれた快適な暮らしを提案。県産材を使うメリットについて、田中工業工務部長の安部裕之さんは「同じ風土で育った材を使うことで、家の狂いも少なく、と指摘した。

参加者からは「木の家は温かみがある。加工後も人の暮らしに役立つ木は生き物であることを確信した」と(倉吉市、田中英也さん)、「快適性、安全性などにおいて木や地元材を使った家の優位性が理解できた気がする」と(鳥取市、谷口直弥さん)と共感の声が上がった。

地域連携、情報一カ所に



音楽イベントを盛り込み、業界内外から参加者が集まった

が、地元材活用の住宅需要を高めると説明。 県中部森林組合専務の加藤栄隆さんは、木材の多段階活用で資源の利用効率を高める「カスケード利用」をキーワードに挙げた。 また、参加者の多くが家族全体に広がる温かみや風が通る開放的な空間などがある「木の家」を評価する一方、「県産材の良さが県民まで届いていない。もっとムードをつくっていかないと」と痛感している工務店関係者も。今後、情報共有を含め業界の垣根を越えた連携で、若い世代などへの積極PRを求める声もあ

住の未来を創る

木づかいの国とっとり 2016

鳥取県産材の需要拡大には、地産地消サイクルを創り出していくことが求められている。「人と木」のつながりを伝える体験ツアーや業界、地域の垣根を越えた連携などを通じ、産地、関係団体がさまざまな角度から、県産材を取り入れた木造住宅の魅力を発信している。

ブランドカ アップへ



良質な鳥取県産材のブランド力高める取り組みが進んでいる。鳥取県木質内装材開発協議会(鳥取県産材)は、

「とっとり 杉 ところ」「とっとり 松 ところ」のロゴマークを



智頭町の床板などの展示スペース(大阪富国生命ビル)

付けて販売することにし、商標登録を手続き中。現在、パンフレットなどにも添付し、PRしている。 智頭町森林組合は、西日本の林産地と連携して6月、建築用材などの展示スペースを備えた「林業地連携ラボ」を開設。大消費地での販路拡大を目指す。寺坂組合長は「他産地との連携で情報発信力が強まる。智頭材を広く売り込み、智頭林業を元気づけたい」と意気込んでいる。

2016木の住まいフェア

無料相談やアトラクション

24日・米子/来月15、16日・鳥取

鳥取県木造住宅推進協議会(髙昌可会長)は、県産材を活用した住宅の良さをPRする「2016木の住まいフェア」を24日に米子市の米子産業体育館で、10月15、16の両日に鳥取市の鳥取産業体育館でそれぞれ開く。モデルルームの公開展示や専門家による無料相談会のほか、親子で楽しめる各種体験コーナーを展開する。入場

無料。 24日の米子会場(同協議会西部支部主催)では木工やかな削り、ミニ畳製作、柱・梁・棟上げまでの作業工程(建方)などが体験できるコーナーを設置。快適に暮らせる住まい造りの伝統技術などを紹介する。豪華景品などが当たるクイズラリーもある。 10月15、16日の鳥取会場(同協議会東部支部主催)では、丸太ころがしやかんなくずを使った宝探しなどのアトラクションを実施。本箱づくりなど木工にも挑戦できるほか、木育広場も開設される。また、新築を考えている人を対象に、県産材の柱60本が当たる抽選会も行う。

県産材製品プレゼントクイズ

智頭町の林田護さんから鳥取の木を愛し、県産材の需要拡大を目指し活動している林業者、建築家らを何と呼んでいますか。



◆抽選で正解者3人に県産材の曲げわっぱ(弁当箱)=写真=(県立智頭農林高・木材加工コース製作)をプレゼントします。

【応募】〒680-8688(住所不要)新日本海新聞社企画開発部「木づかいの国とっとり」係。日本海新聞HP特集ページからも応募できます。10月7日必着。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。個人情報保護法に基づき、個人情報は賞品発送以外の目的には使いません。

「住の未来を創る」は鳥取県木材協同組合連合会などの協力で企画。次回(9)は10月中旬の掲載予定。